

1. 単元名 都賀小のすきなところを伝えるメモを書こう。

2. 単元の目標

○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。 (知識及び技能)

○必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)

○発見したことや自分の好きなものをわかりやすくメモに取ろうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。((1)ア)	「書くこと」において、必要な事柄を集めたり、確かめたりしている。(B(1)ア)	粘り強く必要な情報を集め、今までの学習を生かして知らせたいことをメモに取ろうとしている。 メモを取る良さを感じるとともに、思いや考えを伝えようとしている。

4. 単元について

(1) 言語活動と扱う教材

本単元は学習指導要領で新設された「情報の扱い方」に関する単元である。見聞きした情報を集めてメモする活動が設定されており、児童は家の人に知らせたいことを決め伝えるために、短い言葉で書き出す学習をする。中学年や高学年の「情報の取り扱い」において、必要な語句を書き留めたり図示したりする単元があり、本単元はその前段階の学習としても位置付けられる。

本単元では、「メモを取って友達と見せ合う」という言語活動を設定している。メモは、自分が得た情報を覚えておきたいときや、誰かに知らせるときに使う。今回は主に誰かに知らせるときに使う用途でメモを使用する。しかし、日常生活の中でメモを用いるときは、買い物に行くときや生活科の学習で町探検に行くときなど、得た情報を覚えておくために使うことが多い。初めて「メモ」とはどのようなものなのかを学ぶ子どもたちにとって、自分だけがわかるメモではなく、人に見せながら話すために使うメモであれば、目的が明確であり、どのような情報を書き留めれば良いのかわかりやすい。メモの特性を理解し、書く技能を身に付けるためには、目的をもって取ることでできるメモが良いと考えた。また、メモを友達に見せ、情報が正しく伝わるかどうかを確認する活動を行うことで、より正しいメモの取り方について学ぶことができると考える。

また、導入で教師が取ったメモの見本を見せ、文章で長く詳しく書くよりも短い言葉で書いた方がわかりやすいこともあるということを理解させ、メモの有用性に気付かせたい。さらに、メモを取った経験を想起させることで、日常生活で使う機会が多いことを実感させ、必要感をもって学習に取り組めるようにしたい。

(2) 単元を通して身に付けさせたい力

本単元は、学習指導要領の「B書くこと」における指導事項である「A経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること」を受けて設定している。今回は身近に経験していることとして、「都賀小のすきなところ」を家の人に伝えるという活動を行う。1年生に紹介するために、学校のことを調べ直した子どもたちは、都賀小のすてきなところをたくさん見つけてい

る。そこで学校に来る機会の少ない家の人に都賀小のすてきなところを伝えるという目的があれば、メモを取ることに意欲的に取り組めると考えた。また、必要な事柄を集めたり、確かめたりするためには、まず書くための材料を収集する必要がある。予想や想像ではなく、伝えたいものの情報を正確に把握する力を身に付けて欲しい。そのために、ギガタブを活用し写真で書きたいものの情報を残しておくことで、教室で書くときでも情報を正確に把握しやすくなるのではないかと考えた。そして、家の人に伝えるという目的を意識させることで、相手が知りたい情報は何かを推測し、情報を取捨選択する力を育みたい。

また、必要な情報をメモという短い言葉で書く経験は、子どもたちにとって初めてのことである。文章で書いたほうが詳しく書けるが、時には短い言葉で記述するほうがより多くの情報を残しておくことができたり、情報がよりわかりやすく伝わったりすることを理解させたい。

（３）（１）と（２）の基盤となる言語活動や継続的な取り組み

①継続的な書く指導

児童の中には書くことへの抵抗を感じている児童もいる。そこで、毎回国語の学習の導入の時間を使って、一行日記に取り組んでいる。前日や当日にあった心に残った出来事を３分程度書き続けることで、文字を書くことに対する苦手意識をなくし、抵抗感なく文字を書くことができるようにしたい。また、日記に対して教師がコメントをすることで、児童の「書いて伝えたい」という意欲を育むようにしている。

②継続的な情報を絞って書く活動

メモを取るときに全部の文章をそのまま書こうとする児童や、覚えられるからとメモを取ろうとしない児童がいる。少ない情報なら記憶できたり、文章そのままを書くこともできたりするが、メモの良さというのは多くの情報を得たときに正確に情報を残すことができる点にある。これから児童が生活や社会の中でメモを取る場面は、そのように多くの情報に出会ったときになるだろう。

メモの必要性や有用性を感じ、また、大切な情報を選ぶ力を育むために、朝学習の時間に、聞き取りクイズを行い、大切な情報をメモする活動をしている。題材は昔話や絵本、友達のスピーチなど、児童にとって親しみやすいものであり、聞いただけでは内容の全てを覚えるのが難しいものにした。この活動によって、メモを取ることの便利さを実感させたい。また、クイズ形式にすることで、多くの情報の中からどの情報が大切なのかを考えてメモを取れるようにしたい。

（４）児童の実態について

（省略）

5. 単元の指導計画（全3時間）

時間	学習活動	指導や支援の手立て◇評価
1	○教師の例をもとにメモの書き方や工夫について確かめる。 ○家の人に「都賀小のすきなところ」を伝える学習の見通しをもつ。 ○伝えたい「都賀小のすきなところ」とその理由を考える。	○メモを取った経験を想起させながら、メモの有用性、特徴に気付かせ、自分もやってみたいという意欲をもたせる。 ◇教師の例からメモの書き方や工夫を見付けている。 (思考・判断・表現) ○好きなところが見付けられない児童は、黒板に書いた中から選ぶよう助言する。
時間外	○選んだもの(場所)の写真を撮りに行く。	○写真をギガタブで撮ることで正確な情報を思い出しやすくさせる。
2	○メモを取る練習をする 例)・鉄棒 ・かたい。 ・校庭にある。 ・色々な技ができる。 ○練習で書いたメモをもとに家の人にくわしく知らせるために必要な情報は何かを考え、メモを取る観点を話し合う。 ・大きさ、色、形 ・場所 ・音、匂い、触り心地 ○家の人に伝えたい「都賀小のすきなところ」についてのメモを書く。	○実際にメモを書いてみることで、どんな項目でメモを取ればいいのか見通しをもてるようにする。 ○文章ではなく短い言葉で書けるように指導する。 ○詳しく書きたいことは箇条書きにするとよいことを伝える。 ○好きなところを紹介するためにネガティブな情報は書かなくてよいことを指導する。 ○何を書けばいいか困っている児童にはヒントカードを渡し、滞りなく活動に取り組めるようにする。 ◇家の人に知らせたいものについて、短い言葉でメモを書くことができる。 (知識・技能)
3 (本時)	○メモの添削の仕方を確認する。 ○メモを友達と見せ合い、家の人に「都賀小のすきなところ」が伝わるか確認する。 ○メモを読み合って思ったことを発表し、学習をまとめる。	○何のことを表しているか、好きな理由が伝わっているかクイズ形式にして確認する。 ○多く書くほど情報が伝わることを確認し、添削によって情報を絞りすぎないように指導する。 ◇書いたメモを友達と読み合い、伝わりやすいメモになるよう考えることができる。 (思考・判断・表現) ◇メモの良さを認識するとともに、自分のメモをより良いものにしようとしている (学びに向かう人間性)
時間外	○家の人にメモを見せながら「都賀小のすきなところ」を伝え、感想をもらう。	○家の人に事前に連絡をしておき、前向きな感想がもらえるようにする。 ○スピーチのように書いたものを読むのではなく、メモを見せながら話すことを確認する。

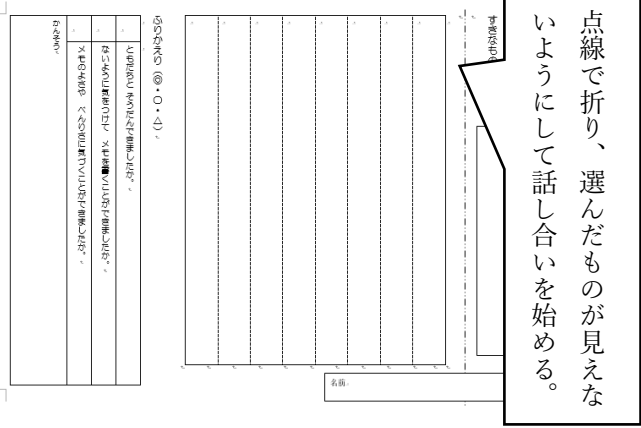
6. 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・書いたメモを友達と読み合い、伝わりやすいメモになるよう考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・メモの良さを認識するとともに、自分のメモをより良いものにしようとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

(2) 本時の展開

学習活動	指導や支援の手立て ◇評価（評価方法）
○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・教師の書いた見本を見て、よいメモの書き方を確認する。 ・みじかい言ばで ・正しく ・ひつようなことを	○どんなメモだと伝わりやすいか考えさせるために教師の見本を見せる。 ○なるべく短い言葉で書くの良いことに気付けるようにする。 ○大事なことはポイントとして掲示し、いつでも見られるようにしておく。
ともだちとそうだんして、もっとよいメモにしよう。	
○メモを友達と読み合い、好きなもの（場所）や好きな理由が伝わりやすいメモになっているか確認する。 ・書き加えたいことは赤でメモに書き加える。 ・減らしたいことは赤で斜線を引く。 	○メモを見て、「都賀小のすきなところ」を当てるクイズ形式にすることで、意欲的に取り組めるようにする。 ○より良いメモにするために、クイズの正解を確かめた後、書き加えたり、減らしたりすると良いことを助言し合えるように促す。 ○3人で話し合わせることで友達の意見を取り入れ、考えを深められるようにする。 ○話し合うことに抵抗がある児童には、活動前に個別に声を掛け、自信をもって友達にメモを見せられるように支援する。 ○ギガタブの写真をいつでも見ることができるようしておき、正確な情報が書けるようにする。 ◇書いたメモを友達と読み合い、伝わりやすいメモになるよう考えている。（記述、発言）
○メモを読み合って良くなったと思ったメモを発表し合う。 ・置いてある場所を書いたら、何のことなのかよくわかるようになりました。 ○振り返りをワークシートに書き、学習をまとめる。	○話し合いを経て変化があった児童のメモを取り上げ、友達と読み合うことによって良いメモになったことを実感させる。 ◇メモの良さを認識するとともに、自分のメモをより良いものにしようとしている。（記述、発言）